

業績のご報告

当上半期における内外経済は、最悪期から脱しつつあるものの、依然として予断を許さない状況で推移しました。また、当社を取り巻く事業環境も、低調な個人消費の影響により、厳しい状況が続きました。

この環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は対前年同期比27.6%減の1,972億円となりました。セグメント別内訳は、エレクトロニクス機器事業が対前年同期比26.5%減の1,742億円、デバイスその他事業が対前年同期比34.6%減の230億円でした。

デジタルカメラは、より進化した当社独自の差別化機能「ダイナミックフォト」を搭載し、コンパクトサイズで広角24mm・光学10倍ズームレンズと1,000枚の撮影ができる長電池寿命を実現した「EXILIM Hi-ZOOM EX-H10」など新製品5機種を投入し、国内市場はトップシェアを確保しましたが、海外市場は新製品の認知浸透の遅れにより減収となりました。また、携帯電話は、防水・

耐衝撃性能を備えたタフネスケータイの新製品「G'zOne CA002」などを投入しましたが、国内市場においては、8月以降、想定以上にシェアが低下し、また海外市場においては、米国ベライゾンワイヤレス社向けモデルの一部が第3四半期にずれ込んだ影響を受け、減収となりました。デバイス事業は、主にTFT液晶がデジタルカメラや携帯電話の需要低迷と価格下落の影響により減収となりました。

損益につきましては、エレクトロニクス機器事業は102億円の営業損失となりました。これは主にデジタルカメラ及び携帯電話の減収によるものです。一方、時計や電子辞書は高収益性を維持しました。デバイスその他事業はTFT液晶の減収による影響から21億円の営業損失となりました。この結果、消去又は全社考慮後の連結合計として149億円の営業損失となりました。また、経常損失は129億円、四半期純損失は108億円となりました。

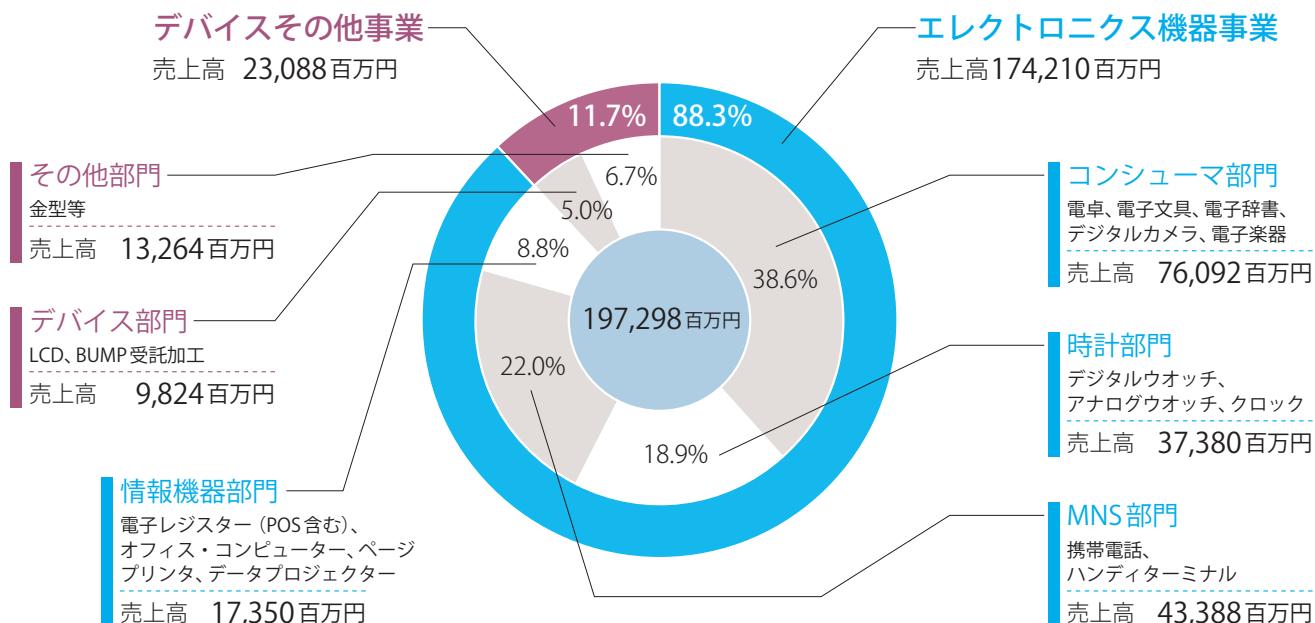
■業績ハイライト（第2四半期連結累計期間）

科目	2007年度	2008年度**	2009年度*
売上高（百万円）	294,277	272,398	197,298
営業利益（百万円）	13,742	18,211	△14,913
経常利益（百万円）	10,545	17,665	△12,929
四半期純利益（百万円）	5,476	9,722	△10,891
1株当たり四半期純利益（円）	19.85	35.18	△39.26

*2009年度より「工事契約に関する会計基準」及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」を適用しています。

**2008年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」、「棚卸資産の評価に関する会計基準」、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」、「リース取引に関する会計基準」を適用しています。

売上高の部門別構成比



通期の業績見通し

通期の業績見通しとしましては、第3四半期以降、デジタルカメラや携帯電話において圧倒的に差別化した新製品の投入などにより、売上、利益の改善を計画しております。

2009年度業績見通し (連結)

科目	2009年度見通し
売上高	4,770億円 (前期比 △7.9%)
営業利益	△50億円 (前期比 —)
経常利益	△55億円 (前期比 —)
当期純利益	△70億円 (前期比 —)